AMDA
多様性の共存
ジャーナル

2018 年 7 月 25 日　VOL.41　第 286 号　定価 550 円
発行／ AMDA　〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替：01250-2-40709　口座名：特定非営利活動法人アムダ

2018 年
夏 号
夏

認定 特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
http://amda.or.jp/
認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
http://amda-imic.com/
AMDA 兵庫
http://amda-hyogo.com/

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第 17 回
天理教道竹分教会 会長　平野（ひらの） 恭助（きょうすけ） 様

AMDA を支えてくださっている支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜びシリーズ」。17 回目となる今回は天理教道竹分教会（岡山県里庄町新庄）の会長として、AMDA の活動にご支援をいただいている平野恭助さんにお話を伺いました。（聞き手・今井康人）

AMDA　本日はお忙しいなか、ありがとうございます。AMDA とのかかわりは何がきっかけとなったのでしょうか。

平野　AMDA が 1994 年、ルワンダ難民支援活動に向かう際、菅波茂代表が医師や看護師ら派遣メンバーの中に「宗教家」がいてほしいと要望され、私が選ばれたのが始まりです。AMDA は国内外で紛争や災害の際、いち早く緊急支援に乗り出す素晴らしい団体と認識していたので、参加することに抵抗はありませんでした。

海外支援で予想しない事態に

AMDA　現地では AMDA が借り上げていたトラックが難民に強奪され、近くで防疫活動中だった自衛隊に緊急出動してもらい日本人 3 人を含むスタッフ 10 人を保護してもらうというハプニングがありました。当時、日本でも大きく報道されています。

平野　突然、予想もしなかった事態が起きて正直、びっくりしました。約 30 人の難民は武装しておらず、命の危険までは感じませんでしたが、手荒い歓迎を受けた体験でした。難民たちは「トラックはルワンダで盗まれた我々のもの」と判断して取り返したということでした。AMDA への恨みによる犯行ではないことにホッとしました。

AMDA　その後も AMDA がベトナムやフィリピン、インドネシアなどで取り組んだ ASMP（医療と魂のプログラム）にも積極的に参加してもらい、戦没者らの慰霊に協力をしていただきました。

平野　むしろ菅波代表から厚い信頼を受け、たびたび声掛けをしてもらったことに深く感謝しています。

AMDA　平野さんには新潟中越地震（2004 年）や南太平洋のサモア諸島津波被害（09 年）にも調整員として参加してもらい、熊本地震（16 年）では天理教の施設を派遣スタッフの宿舎として開放してもらいました。17 年にはインド・ブッダガヤに多くの古着も寄贈されています。

（2 頁記事参照）

高邁（こうまい）な思想より実践を大切に

平野　宗教家は「人をたすけて我が身たすかる」が原点です。少しでも困っている人の支援になればと活動を続け、30 年以上になりました。

AMDA　その間、海外 30 カ国を訪問し、まさに国際人といっても過言ではありません。今の世界の実情をどのように感じておられますか。

平野　経済的には少しずつ上向いていますが、心のレベルはむしろ後退しているのではないでしょうか。自己中心的な考えが目立ちます。高邁な思想より助け合いの姿を黙って実践していく。その後ろ姿が人の心を打つ。時間はかかるが、こうした活動の積み重ねが今、求められているのではないでしょうか。

平野氏は 20 年来の同志　黒住宗道・黒住教教主

平野氏とは、1996 年にともに立ち上げた「人道援助宗教 NGO ネットワーク（RNN）」発足以来の "同志" です。彼が重んじる「高邁な思想より実践を大切に」の精神は、「人道援助活動を行う宗教 NGO のネットワーク」という我々の団体名そのものです。

AMDA の推進するプロジェクトで私が海外に出掛ける際の手配は全て "平野旅行社" 任せです。信頼関係あればこその、宗教協力の現れだと有り難く思っています。

（インタビュー内の敬称は省略させていただきました）

貧しさに負けないで　インドで衣類を配布

天理教岡山教区国際救援委員会より衣類など322箱分をインドにお送りいただき、AMDAは2018年6月14日から16日にかけ、国内最貧州のビハール州ブッダガヤの3カ所で配布しました。

14日には、貧困地域を対象に母子保健事業を行っているAMDAピースクリニック（APC）にて、妊婦、褥婦と以前サービスを受けていた患者さん計103名に衣類などを配布しました。15日には、現地協力団体であるJeanamitabh Welfare Trustと協力して、農村部に住む貧しい家庭の子どもたちを対象とした同団体が運営する無料全寮制学校の生徒約600名に対して配布、16日には、現地協力団体であるVeda Mother Teresa Welfare Trustと協力して、同団体が運営している、身寄りのないお年寄りや障がい者の住む「お年寄りの家」とその家があるシュリプール村を対象に56世帯約700名に配布しました。（インド担当　岩尾　智子）

衣類を受け取った
生徒のディーパさん
（14歳）

日本の服かわいい

日本の人が私たちに服を送ってくださったと聞いた。日本について今は知らないことが多いけれど、日本のことをもっと学んで服を贈ってくださった日本人といつか会いたい。ブッダガヤにいながら日本の服を着ることができてうれしい。この服、かわいいでしょう？　服を届けてくれて、ありがとう。

事故防止ヘルメットも配布

2018年6月18日、AMDAはブッダガヤ地区ロータリークラブと協働で、インドビハール州ブッダガヤ在住のオートバイ使用者45名に先着順でヘルメットを贈呈しました。町の道がヘルメットをもらおうとする人々で埋め尽くされ渋滞ができるほどで、ブッダガヤ警察にも警備面でご協力いただきました。

通常、ヘルメットを被ってオートバイに乗っている人を見かけることが少ないブッダガヤでも、この日は40℃を超える暑さにも関わらず、皆受け取ったヘルメットをすぐ着用していました。受け取ったハッサンさんは、「ヘルメットを贈呈してもらえてうれしい。このヘルメットは自分を守るし、ひいては家族も守ることになる。大切に使用したい」と話しました。この活動は、ブッダガヤ地区警察長官から同地区でオートバイ事故が多発しており、ヘルメット着用の促進に協力してほしいという要望を受けて行いました。　（インド担当　岩尾　智子）

パキスタン家庭健康教育プログラムの優秀賞授賞式

2014年6月に神奈川県茅ケ崎市にて、AMDAは茅ケ崎中央ロータリークラブ、現地NGOのNRSP（ナショナルルーラルサポートプログラム）と「パキスタン家庭健康教育プログラム」の推進について三者協定を締結。以来、パキスタン南部の農村部に住む未婚女性（16～22歳）を対象に、講義を通じて、衛生管理、応急処置、栄養管理、ポリオを含む予防接種、出産準備、妊産婦ケア、母乳育児、家族計画などの健康に関する知識を広めてきました。

2017年12月にプログラムが終了するにあたり、優秀な成績を収めた未婚女性と講師に感謝の意を込めて、カラチにて優秀賞授与式を開催しました。磯村利和在カラチ日本国総領事、パキスタン・ポリオ・プラス委員会アジス・メモン委員長をはじめ、優秀受講生20名、優秀講師6名、NRSPとAMDA関係者ら48人が参加。優秀受講生と講師に盾と賞状、副賞として石鹸、生理用ナプキンなどが入った衛生キットを主催者側より手渡しました。

NRSP総裁ラシッド・バジュア氏は、「このプロジェクトは未婚女性が健康教育を受けることにより、自身の将来に備えることの大切さをパキスタンの人々に気付いてもらうきっかけとなった。39名の講師を養成し、講義を受けた未婚女性1,442名のうち1,194名が修了テストに合格するという素晴らしい結果が得られた。NRSPでは“活動対象を未婚女性にする”というコンセプトを他の活動でも応用していきたい」と語りました。

（パキスタン担当　岩尾　智子）

AMDA 連携野土路農場で田植え体験

フードプログラムの一環として、有機無農薬栽培で稲作に取り組んでいる新庄村の AMDA 連携野土路農場で６月２日、田植え体験が行われ、地元農家をはじめ岡山、玉野市などから約 20 人が参加しました。

田植えは約８㌃の水田で行われ、10㌢程度に成長したコシヒカリの苗を約１時間かけ、横に張った糸を目印に植えていきました。

初めて体験する参加者も多く、泥に足を取られるなど悪戦苦闘をしながらも、慣れるに従って手際よく植えていました。真庭市富原から参加した主婦（56 歳）は「田植えは楽しく、夢中になって時間の経つのを忘れました」と額の汗をぬぐいながら笑顔で話していました。

水田のアヒルに子どもたちが歓声

続いて、害虫駆除に役立つ生後 15 日程度のアヒル 70 匹を次々と水田に放ち、子どもたちは「かわいい」と歓声を上げて大喜び。新庄小学校２年の女子児童（７歳）は「アヒルの毛はふわふわして気持ちが良かった」と話していました。

参加者は地元農家手づくりの豚汁やおにぎり、新鮮な野菜サラダに舌鼓を打ちながら、子どもたちによる新庄田植え踊りを見学し、盛んな拍手を送っていました。

（参与　今井　康人）

アロイシウス・シタミ農場長の話

田植えは農場を開設してから７回目。今年も多くの参加者でにぎわい、うれしかった。おいしいお米が食べていただけるよう頑張りたい。

【メモ】AMDA 連携野土路農場　アジアへの有機農業の普及・啓発を目的に 2012 年から始まった。1㌶でコシヒカリやヒメノモチ、野菜を栽培。農場長はマレーシア人で、奥さんは日本人。収穫した米は AMDA 職員がプロジェクト関係国の在日公館などを表敬訪問し、贈呈している。

フィリピン復興支援に向け　菅波代表がマラウィ市訪問

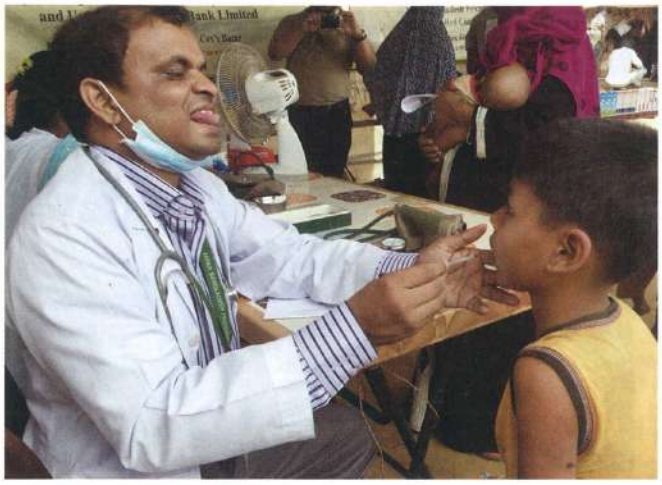
2017 年５月 23 日にミンダナオ島マラウィ市で起きたフィリピン政府と IS（自称イスラム国）系マウテグループによる武力衝突は 10 月 16 日、ドゥテルテ大統領によるマラウィ開放宣言で終局を迎えましたが、現在も７万世帯 35 万人以上が避難生活を余儀なくされています。（フィリピン社会福祉開発省 2018 年４月３日発表）。

AMDA と昨年協力協定を締結した大統領府官房長官室のメルカド筆頭秘書官からマラウィ市訪問の提案をいただき、AMDA 菅波代表とスタッフ１名が４月６日に現地に入りました。

政府現地オペレーションセンター、ミンダナオ州立大学、マラウィ市の仮設住宅などを訪問し、避難者の生活を垣間見る中で、子どもたちが集まる場がないことが分かりました。今後、メルカド氏と話し合いながら、AMDA は復興支援事業として仮設住宅地域での子ども図書館開設に向けて協力していく予定です。

（フィリピン担当　岩尾　智子）

嵐のロヒンギャ難民キャンプ　モンスーン時期の試練



ミャンマーから隣国バングラデシュに逃れている、イスラム教を信仰するロヒンギャ難民が暮らすバングラデシュ南東部、コックスバザールの難民キャンプの状況を報告します。

バングラデシュ気象局によると、6月10日から雨が降り続くようになり、6月10日以降、12日までにコックスバザール地区で約400mmの雨が降りました。

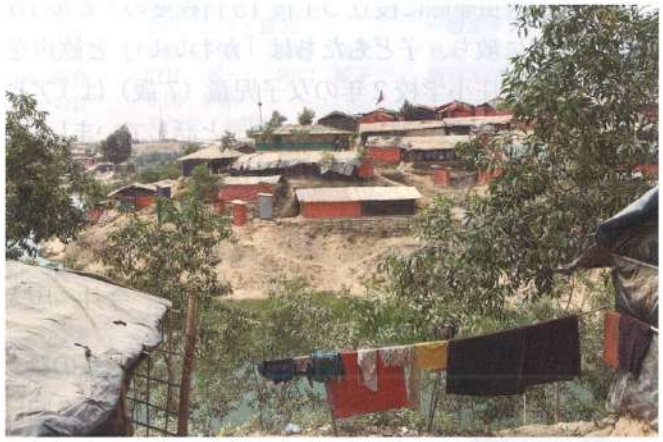
1万7千人が避難　当局が「緊急宣言」

豪雨による地滑りなどで死亡者が発生し、強風による仮設テントの倒壊も多数起きたためバングラデシュ当局は6月12日、緊急宣言を発令しました。その後6月13日の時点でおよそ2,000以上の仮設住居が損壊、17,000人以上の難民が一時的にさらなる避難を強いられるなど影響を受けました。

AMDAの診療活動にも影響

AMDAは医療活動を開始して半年が経過しましたが、この豪雨により難民キャンプでの医療活動も試練の時を迎えて、AMDAバングラデシュと日本バングラデシュ友好病院を中心とした現地医療チームも、活動拠点のクトゥパロン難民キャンプへ入る本道が水浸しになりました。これにより車両でのアクセスが一時的に閉鎖されキャンプに入れなくなり、診療を中止せざるを得なくなる日が出るなど影響を受けました。

6月下旬現在、雨がいったん落ち着いたため、AMDA診療所の拡張・改築を急ピッチで行いながらモンスーン時期の激しい風雨を乗り越えるための更なる備えを行っています。チームは、一時的にキャンプ内の他の場所で診療活動を続けながら、患者の対応に追われています。



国連高等難民弁務官事務所（UNHCR）の発表によると、ロヒンギャ難民キャンプには2017年8月25以降にバングラデシュに到着した70万2千人を含む約90万人が暮らしています。

AMDAは4月30日までに1万9,346人の患者を診療、これまでにバングラデシュ国外からの調整員・医療者を他団体の協力を得て延べ10名派遣しています。

（バングラデシュ担当　橋本　千明）

国籍がなく故郷を追われるということ

今年5月。再度難民キャンプを訪れて目にしたのは、半年前にキャンプを訪れたときと何ら変わることなく、まるで静かな生き物のように存在する簡素なテントの群れでした。支援物資を抱え行き交う人々、所在なくたたずむ若者、無邪気に遊ぶこどもたち。一見活気あるように見える難民キャンプですが、彼らに移動の自由はなく、生活はキャンプ内に制限されています。

大量の難民発生からこの夏でまもなく1年を迎えますが、彼らの社会的立場を保障するものは何もありません。私たちがどんなに力を注いでも支援できないもの、それが、彼らの国籍の取得であり、安心して暮らせる故郷への帰還です。難民として生まれ育った経験を持ち、2月に医療支援に参加したパレスチナ難民であるUNRWAのアリ医師は、「自分が少年の時に見た光景と全く変わらない光景がそこにあった」と振り返ります。

同じイスラム教徒として、厳しい経済状況の中で必死にロヒンギャ難民の方々の生活を支えるバングラデシュ人。また、それを後押しする国外からの支援団体。

AMDAは1992年のロヒンギャ難民支援の経験を生かす形で今回の危機を、現地支部のAMDAバングラデシュとともに医療面から支えています。

（バングラデシュ担当　橋本　千明）

世界平和に貢献を　シンガポール医大生が研修

AMDAは次世代の育成に力を入れるために「TAPP」を開始しました。TAPPはトリプルAパートナーシップ・プログラムの略で、AMDA、AMSA（アジア医学生連絡協議会）、AMSA Alumni（卒業生部会）の三者が協力して活動を行っています。その一環として、今回は2018年5月14日から6月13日まで、シンガポール国立大学医学生9人がネパール・トリブバン大学教育病院（TUTH）とAMDAダマック病院で研修プログラムを受講しました。

医学生たちは最新の医療機器が整っているシンガポール国内で医療に関わっており、ネパールの保健医療システムや医療機器の違いに少し驚いた様子。しかし、「医療従事者として患者に対する思いやりや関わり方、そして患者さんの早期回復を願う気持ちは国境を越えて変わらないと共感した」と述べていました。

TAPPはAMSAのメンバーである医学生を対象とし、医療を通じて世界平和に貢献できる人材の育成を目指しています。なかでもシンガポール国立大学は優秀な人材

を育成する教育機関として知られています。恵まれた環境で生活してきた彼らは、設備や医療システムが整っていない中で医療サービスの在り方について考え、多くのことを学んだのではないかと思います。この研修プログラムでの知識や経験を活かし、将来、世界平和に貢献できる活動をされることを期待しています。

（ネパール担当　アルチャナ　ジョシ）

インドAMDAピースクリニックスタッフ　ネパールで研修

2018年4月15日から29日まで、インドAMDAピースクリニック（APC）スタッフであるバビータ氏が隣国ネパールのAMDAダマック病院で母子保健サービスを中心に研修を受けました。最初は言葉や環境に対する不安が大きかったバビータ氏ですが、温かく迎え入れてくださったナビン院長をはじめスタッフ一同のご尽力により、学びの多い充実した研修となりました。

バビータ氏は「AMDAダマック病院はAPCに比べてかなり規模の大きい病院で外来、手術室、救急外来など24時間体制で動いている。スタッフも責任をもって患者さんに対応している様子に感動した。研修中に学んだ患者ケアの重要性および知識を今後の活動に生かしたい」と語りました。

帰国後の6月5日にAPCで行った健康教室では、参加した妊婦と褥婦にバビータ氏がネパールで学んだ離乳食を紹介。「高い市販の離乳食を購入しなくても、栄養価の高い離乳食を安価な材料で作ることができる」と話し、続く栄養プログラムでは6カ月以上の乳児にトウモロコシ、豆、ナッツ、麦、大豆の種を粉状にしたものを牛乳に混ぜた離乳食を提供しました。

参加者からは「予算内で手に入る材料を使った離乳食で、赤ちゃんの健康にも良い。早速、自分でも作りたい。」という声が聞かれました。バビータ氏は研修で学んだ知識を積極的に活動に生かしています。

（インド担当　岩尾　智子）

AMDA スリランカ平和構築プログラム現在までの進捗状況

毎年 8 月に開催する AMDA スリランカ平和構築プログラムに参加するため、日本から 11 名の中学生、高校生が 7 月末よりスリランカを訪れます。

今までは AMDA 中学高校生会からの参加でしたが、今回は 2016 年に連携協定を結んだ赤磐市の中学校、東日本大震災やフィリピン台風 30 号復興支援 (2014 年) で AMDA と活動した広島県内の高校生にも参加を 4 月に呼びかけ、翌月赤磐市立中学生 5 名、広島県立福山誠之館高校生 2 名、AMDA 中学高校生会 4 名の参加が決定しました。更に、友實武則赤磐市長や赤磐市職員、広島大学大学院生（インターン）、AMDA から菅波茂代表及び職員が参加します。

私は 6 月初旬に現地入り、サマラゲ AMDA スリランカ支部長と打合せ、視察調整を行いました。帰国後、赤磐市、福山誠之館高校、AMDA 事務所にて参加者と保護者に対し説明会を実施。同月 25 日には赤磐市職員と在日スリランカ大使館にてダンミカ　ディサーナーヤカ大使と面会してきました。

7 月には赤磐市にて日本からの参加者全員の事前交流を予定しています。

（AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷　和子）

イオン倉敷からギフトカード寄付

イオン倉敷（倉敷市水江）の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」の 2017 年度贈呈式が 4 月 11 日、同店で行われ、AMDA はギフトカードを頂きました。

岡山県内の身体障害者支援団体、小学校 PTA の代表ら約 50 人が出席。各団体はカードの贈呈目録を受け取った後、活動報告をしました。AMDA は竹谷和子ボランティアセンター事務局長が AMDA の理念やロヒンギャ難民支援などの活動を報告した後、「頂いたギフトカードは大切に使わせていただきます」とお礼を述べました。

贈呈式に先立ち、AMDA 本部職員とボランティアの計 7 人は、黄色いたすき姿で買い物客に協力を呼び掛けました。キャンペーンは毎月 11 日に実施。買い物客は同店から受け取った黄色いレシートを事前登録した団体の専用ボックスに投入、集まったレシート総額の 1%分のギフトカードを各団体が受け取る仕組みです。

2001 年よりイオンが企業の社会貢献活動の一環として全国で実施、倉敷店は 2006 年から始めました。

（参与　今井　康人）

総社市が WHO で発表

2018 年 6 月 19 日から 21 日、デリーで開催された WHO 会議に岡山県総社市の片岡聡一市長とともに AMDA 菅波代表が出席しました。3 月に開催した総社市と AMDA 共催全国屈指福祉フォーラムがきっかけとなり、今回、南アジアや西太平洋などの WHO 関係諸国にも総社市の先駆的な福祉の取り組みを紹介することになりました。

片岡市長は、総社市の障がい者 1000 人雇用の取り組みや、災害時要援護者に対する政策について 48 の国と地域から参加した WHO 担当者を前に、粘り強く進めてきた経緯と自らの福祉政策に対する信念を力強く語りました。福祉面をはじめとした地方自治体の首長のリーダーシップが AMDA などの NGO との連携によって災害対応にも生かされていることが発信されました。

（インド担当　岩尾　智子）

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。

岡山ハーモニーライオンズクラブ 様

岡山市立石井小学校 様

渡邊　亮 様

ストリートチャイルド支援実行委員会 様

西日本で平成最悪の大水害　大規模チームを緊急派遣

7月6日夜より岡山県全域で大雨特別警報が発令。7日よりAMDAは災害時応援協定を締結している総社市に医療支援チームを派遣しました。このチームにはAMDA職員のほか、「AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム」協力医療機関や岡山県薬剤師会吉備支部などから、医師4人、看護師9人、薬剤師14人、理学療法士2人、調整員10人、合計39人が参加しています（7日～10日までの参加者数）。

総社市保健師とも協力し、7日は市内避難所2カ所を巡回。翌日は、きびじアリーナ（総社市中央）にAMDA救護所を開設し、避難者等計114人に診察と必要に応じて薬を処方するなど医療活動を実施しました。診療した人の中には、体調不良を訴える方以外に、薬を流され不安を感じる方やこの被害状況に驚き興奮している方もいました。

9日は、避難者の熱中症予防のため、総社市が冷房設備がある市内の他の避難所へ避難者を移動することを決定。

きびじアリーナにて避難者の移動準備を行う一方、同避難所の救護所で健康相談を実施しました。翌日10日以降は移動先の一つであるサンワーク総社にて巡回しながら避難者の健康相談を実施しました。

岡山県の報告によると、11日午前11時現在で、死者が56人（内総社3人）、行方不明者が32人（内総社1人）が出ています。

総社市内の避難所は、ピーク時の8日未明で26カ所開設、3,283人を収容しました。

（GPSP支援局　総務担当　ブルックス　雅美）

猛烈な豪雨に氾濫寸前の高梁川

避難者の診察を行うAMDA医師とAMDA看護師

大阪北部地震　緊急救援チームが現地入り

6月18日午前7時58分、大阪北部を震源とするマグニチュード6.1の地震が発生、大阪では最大震度6弱を記録しました。この地震に対し、AMDAは現地に入り支援ニーズ調査を行うことを決定。6月18日にAMDA本部より職員2名が現地入りました。

高槻市と茨木市の各災害対策本部を訪問し、被害状況等を確認し、計6か所の避難所を訪問調査しました。避難所では、担当者から情報収集をするとともに、避難者の方々にも聞き取りを行いました。

余震が続く中、不安な気持ちで避難者の方々が避難所で過ごしていましたが、地元の医療機関がすでに立ち上がっていることと、家屋の全壊などはなく帰宅しているという状況から、現段階での医療を含めた支援の必要性はないと判断し、今回の活動は一旦終了し引き上げることになりました。同規模の余震発生が危惧され、強雨による土砂災害等の二次災害発生の可能性もあることから、AMDAは今後も状況を注視していきます。

（プロジェクトオフィサー　神倉　裕太郎）

モンゴルの子どもたちの目に救済を！

AMDAでは2012年から毎年、モンゴルで子どもたちの眼科健診を行っています。子どもの目の問題の8割は、適切な時期に適切な治療をすることで、明らかな回復が期待できます。今年も8月28日から9月3日に小学校1年生を対象に2つの地域で眼科健診を行います。

みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

AMDA収穫祭@新庄村

AMDAは収穫祭を開催します。収穫体験、炊き出し、バンド演奏などを予定しています。

皆さま是非お越しください。（詳細は決まり次第HPなどでお知らせします）

日にち：2018年9月29日（土）
場　所：新庄村野土路地区

NPO団体に再認定

AMDAは認定NPOとして初回認定から5年の満了にともない、有効期間を更新申請し、平成35年5月7日までを有効期間として岡山市より認定をいただくことができました。引き続き、寄付控除の領収書を発行いたします。皆さまから変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。

（編集責任者・今井康人）